



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

CITATION:

天象. 天界 1931, 11(124): 385-387

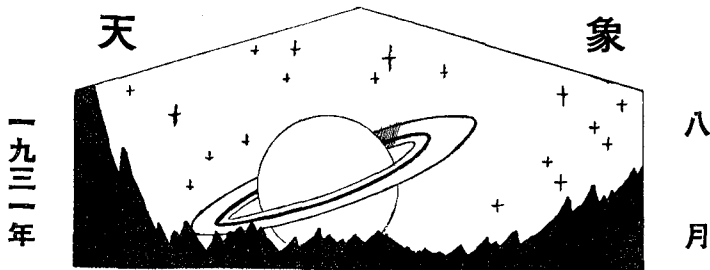
ISSUE DATE:

1931-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161694>

RIGHT:



太陽

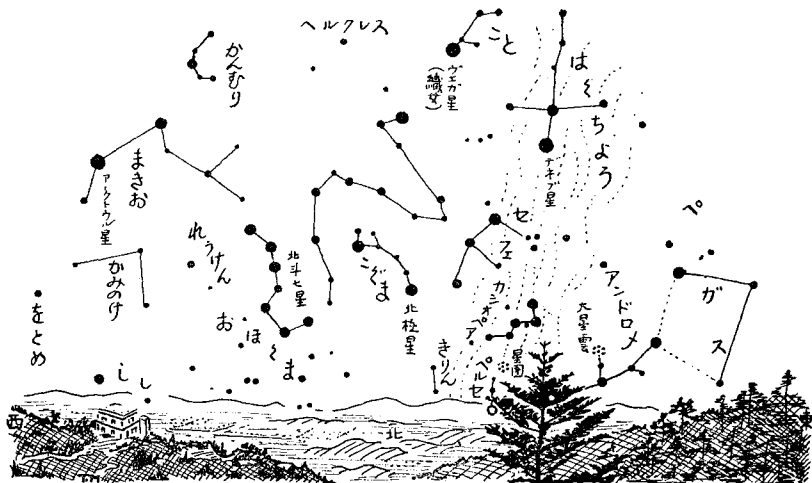
日	赤 經	赤 緯	視直徑	星 座
(30)	8時33分30秒	北18度47分	31分34秒	か に
9	9時12分 8秒	北16度11分	31分36秒	か に
19	9時49分49秒	北13度 8分	31分40秒	し し
29	10時26分40秒	北 9度45分	31分44秒	し し

太陽は月始めは、獅子宮に在るが、二十四日からは處女宮に侵入する。日の出は少しづつ遅れて、一日に五時五分、十一日に五時十三分、二十一日に五時二十分、三十一日に五時二十八分となる。又た、日の入りは、逆に早くなつて行つて、一日に七時一分であつたのが、十一日には六時五十一分となり、二十一日には六時三十九分、三十一日には六時二十七分となる。更らに、朝や夕の薄明の時間は先月より少し短くなつて、大體一時間三十分程である。

月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
下 弦	7日午前 1時28分	29分56秒	ひ つ じ
新 月	14日午前 5時27分	32分58秒	し し
上 弦	20日午後 8時36分	31分45秒	てんびん
満 月	28日午後 0時 9分	29分39秒	みづがめ
遠地點通過	3日午後 4時48分	29分30秒	う を
近地點通過	15日午後 6時54分	33分 7秒	し し
遠地點通過	31日午前 6時24分	29分26秒	う を
昇交點通過	4日午前 0時 0分	29分30秒	う を
降交點通過	17日午前 7時36分	32分57秒	を とめ
昇交點通過	31日午前10時 6分	29分26秒	う を

月の出は、一日午後十時二十分、八日午前五時二十三分、十五日午前十一時二十三分、二十二日午後二時二十四分、二十九日午後九時二十二分。月の入りは、一日午前十一時四十一分、八日午後三時二十六分、十五日午後十時三十三分、二十二日午前四時十九分、二十九日午前十時十五分、



恒星界

八月はほぼ舊暦の七月に當り、日没後の天頂には、

七夕の織女星が純白の明るい光を放ち、

天の河を越えて、對岸には牽牛星が輝やいてゐる。

南天にはいて座の不思議な姿が、西に向つて、

前方を逃げて行くさそり座を追ひ、

其れと入れかわつて、東からはひつじ座

みづがめ座、ペガス座、等が、登つて来る。

北天の極星の上部にはりゅう座が、かまへ、

北極星の西には、おひくま座、東にはカシオペア座が對し、

夏の天は、世の總ての人を星に誘ふものであらう。

特に天の川の壯觀は、何ものにも譬へ難く、

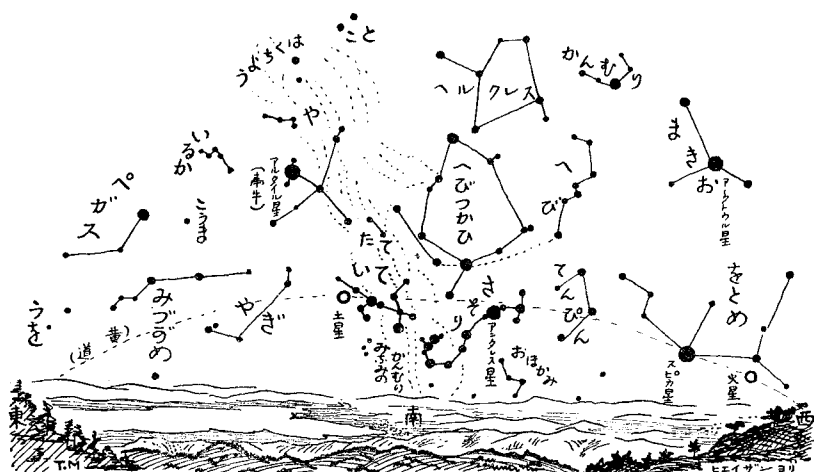
セフェウスからはくてうあたりは天の河の複雑な、

構造を示して居り、へびつかひからいて座にかけては、

又た、天の川の深みを見せる部分である。

試みに、双眼鏡ででも、此の邊を覗いて見れば、

成る程、尤もとうなづかれるであらう。



遊 星 界

水 星 宵の星。しし座レグルスの近にありて、順行し、八日に東方最大離角27度となり、今年中での最も好都合な観望時期である。其の時は赤経は10時53分、赤緯北5度。視直径7秒半、光度零等。更に順行して、しし座東端近くまで行き、二十二日に留となり、以後逆行に移る。

金 星 暁の星ではあるが、太陽に近く観望にはあまり適しない。月始めはふたご座東端にあり順行して、レグルスの東側まで進む。月末程、観望困難。月始めの視直径10秒、光度負3等半。

火 星 宵の星であるが、可なり太陽に近くなつた。おとめ座の西端から、順行して、スピカ星の西側まで進む。光度約2等、視直径4秒餘。

木 星 月始めは、太陽に近くて駄目であるが、月半には暁の星として、東天に現はれる。月末の視直径30秒、光度負1等半。かに座の東部。

土 星 今月もまだ観望の好期である。宵の東天しいて座の東部を逆行中であつて、視直径16秒。輪の長径41秒、短径17秒、光度〇等、輪の傾きは24度。小望遠鏡にても観望出来る。

天 王 星 暁の西天しうを座東部を逆行。光度6等、視直径3秒半。

海 王 星 太陽に近く、二十九日に太陽と合となる。観望不能。

冥 王 星 暁の星であるが太陽に近くてだめ。